

2023年度「線区活用に関する検討会」の取り組みについて

2019年度より、ご利用状況が大きく減少した線区を対象に、県や沿線自治体、九州運輸局と当社による協働の取り組みとして「線区活用に関する検討会」を開催しております。

この検討会では、鉄道の持続可能性を高めていくことを目的に、沿線自治体の皆さまと当社が一緒になって、線区の現状を相互理解し、線区活用策に取り組んでおります。

今後も本検討会の取り組みなどを通じて、地域の皆さまと持続可能な交通ネットワークの提供に努めてまいりますので、より一層ご利用いただきますようよろしくお願いいたします。

○ 2023年度の開催線区およびこれまでの開催実績

【対象線区】

- ◇筑肥線(伊万里-唐津)
- ◇吉都線(吉松-都城)
- ◇指宿枕崎線(指宿-枕崎)
- ◇日南線(油津-志布志)

【上記4線区のこれまでの検討会開催実績】

- ・2019年度:2回、2020年度:3回、2021年度:4回、2022年度:3回
- 2023年度:3回、2024年度:1回(2024年7月22日時点) 通算16回開催

○ 各線区における取り組み内容

- ◇別紙参照

「筑肥線(伊万里～唐津)活用に関する検討会」 における2023年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

筑肥線(伊万里～唐津)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々に選ばれる交通手段とすることを目的として、2023年度は「筑肥線活用に関する検討会」を計3回開催しました。

本検討会では、筑肥線のご利用実態に関する情報共有や、ご利用いただくための活用策の検討およびそれらを各主体で実施した結果、多くの方々にご参加いただきました。

2. 出席者

唐津市、伊万里市、佐賀県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した主な線区活用策

ロマンシング佐賀の取り組み

佐賀県と人気ゲーム「サガ」シリーズを展開する株式会社スクウェア・エニックスとコラボした「ロマ佐賀列車」を活用し、以下の取り組みを実施することで、筑肥線の利用促進と周辺観光地への周遊促進等を図りました。

(主な取り組み)

- ・「スタート割！ロマ佐賀列車 周遊きっぷ」の発売
発売期間:2023.12.15～2024.1.14
発売実績:316枚
- ・オリジナル駅名標の設置
(上伊万里～肥前久保間の9駅)
- ・オリジナル駅名標ガチャの設置
- ・伊万里駅等のラッピング装飾
- ・ロマ佐賀列車オリジナルリングノートのプレゼント
- ・「ロマンシング佐賀列車大集結ナイトツアーin 唐津車両センター」等



マイレール意識の醸成

筑肥線沿線の小学校へ駅壁画の制作を依頼するなど、地域のみなさまと連携して駅の賑わいを創出するとともに、鉄道を大切に思う沿線の気持ちを発信しました。また、伊万里市内の小中学生を対象に、鉄道に関する絵画コンクールを実施しました。表彰と記念品の贈呈を行い、作品への応募を通じて、沿線の子どもたちのマイレール意識の醸成を図りました。

総応募数:117点※

※筑肥線と松浦鉄道合計



地域イベントでの鉄道PR活動

10月に開催された「いまり秋祭り」などのイベントにおいて、主催者と連携して「こども用駅長制服体験会」や「ミニトレインの運行」等を実施することで、沿線地域に向けた鉄道の魅力発信を行いました。イベントに合わせて列車を増結することで、イベント誘客による筑肥線の利用促進を図りました。



全体

この他にも、以下の取り組みを実施し、全11件の活用策全体の参加者等は約 1,100 名(うち JR 利用者約 800 名※)でした。

- ・沿線住民や学生へのチラシ配布による鉄道利用の促進
- ・鉄道を利用した通勤・通学の推進
- ・遠足等の行事で鉄道を利用する保育所等への支援
- ・鉄道の利活用促進事業を行う地域団体等への支援
- ・公式 SNS による情報発信

※筑肥線以外の他線区をご利用のお客さま数も含む



参考:沿線住民に配布したチラシ

4. 2024 年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しています。引き続き、筑肥線の更なる活性化にご協力をお願いします。

- ・チラシ配布による鉄道利用の推奨
- ・筑肥線絵画コンクール、駅壁画の制作
- ・駅周辺での記念イベント開催等への支援
- ・遠足等の行事で鉄道を利用する保育所等への支援
- ・鉄道の利活用促進事業を行う地域団体等への支援
- ・ロマ佐賀列車を活用した利用促進キャンペーン
- ・SNS を活用した沿線の魅力発信
- ・沿線の魅力を活かした企画列車や団体向け臨時列車の計画

「吉都線活用に関する検討会」における2023年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

吉都線を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々に選ばれる交通手段になることを目的として、2023年度は「吉都線活用に関する検討会」を計3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有や意見交換などを行いました。

また、ご利用状況を改善するため、JR吉都線利用促進協議会や沿線自治体等において様々な線区活用策が実施され、多くの方々にご参加いただきました。

2. 出席者

都城市、高原町、小林市、えびの市、湧水町、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 主な線区活用策（JR吉都線利用促進協議会及び沿線自治体等による取り組み）

吉都線全線開通110周年記念事業

全線開通110周年となる2023年10月8日に都城駅にて記念イベントを開催し、吉都線の魅力や沿線のグルメなどをPRしました。また、これに先立ち開催した吉都線にまつわる絵画コンテストの表彰式や出発式なども開催しました。

- ・吉都線サポーター新規登録:150名
- ・JR利用者:50名以上



官民連携で取り組む通勤定期購入支援

吉都線を積極的にご利用いただける企業をJR吉都線応援企業として認定し、認定企業に勤める方が吉都線の通勤定期を購入する費用の一部を補助する事業を行いました。

- ・応援企業認定件数:1件
- ・JR利用者:1名(定期券新規購入)



JR吉都線

通勤定期の購入費に補助金が出ます!

乗って残そう吉都線

定期券の購入費用を一部助成することで、吉都線の利用促進を図ります。ぜひご利用ください。

対象者	助成額
吉都線で通勤している方 吉都線で新たに通勤を始める方 <small>※勤労先企業が「JR吉都線応援企業」に認定される必要があります。</small>	通勤定期と 通学定期の差額

「日本発祥地まつり」×JR 九州ウォーキング

高原駅付近で開催される「日本発祥地まつり」にあわせてウォーキングを開催し、自然・歴史・温泉などの沿線の魅力を多くの方に体験いただきました。

・参加者:101名(うち、JR利用者:約70名)



全体

この他にも「JR九州のお仕事体験ツアー」など、全7件の線区活用策を実施し、全体の参加者は約1,100名で、そのうち約900名の方にJRの列車をご利用いただきました。

4. 2024年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しています。引き続き、吉都線の更なる活性化にご協力をお願いします。

- ・官民連携で取り組む通勤定期購入支援
- ・季節や沿線市町の行事等に合わせたイベント列車の運行
- ・小中学校や幼稚園、老人クラブ等の活動を対象とした吉都線団体利用への支援

吉都線団体利用への支援

沿線自治体管内の団体が吉都線を利用される際に運賃の補助を行い、小中学生等の団体ご利用されました。

・JR利用者:699名(25団体)

「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」 における2023年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

指宿枕崎線(指宿～枕崎)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段になることを目的として、2023年度は「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」を計3回開催しました。

検討会では、線区のご利用実態に関する情報共有や、ご利用者を増やすための線区の活用策の検討および実施に向けた協議などに取り組み、それらを踏まえ各主体にて活用策を実施した結果、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

指宿市、南九州市、枕崎市、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した線区活用策

「果ての鉄道展」の開催(枕崎市)

指宿枕崎線全線開通60周年、枕崎駅舎建設10周年を記念し、「鉄道が走る南薩の魅力」に触れ、また「モビリティ・マネジメント」を推進し、公共交通が「社会基盤」であるという意識の醸成を図る企画展を開催しました。

・来場者4,260名
(うち、JR利用者約440名)



西穎娃駅を利用したイベントの開催(南九州市)

西穎娃駅の駅舎や駅前スペースを活用し、鉄道模型走行会やミニマルシェ等のイベントを実施しました

・来場者68名(うち、JR利用者7名)

列車を利用した「謎解きイベント」の実施

(鹿児島県鉄道整備促進協議会)

鉄道の魅力発信や鉄道での移動促進を目的に、列車の移動を伴う謎解きイベント「探偵ニャーロックとミステリートレイン」を企画・開催しました。

・イベント参加者130名

JR 指宿枕崎線利用促進事業(南九州市、枕崎市)

社会見学を行う団体への運賃の一部補助や小中学校の校外学習における運賃全額補助、各種啓発活動を実施しました

- ・広報紙や市HPでの利用啓発
- ・教育委員会や学校への働きかけ
- ・課外授業への講師派遣
- ・参加者116名
(うち、JR利用者116名)



「いぶすきバル」の開催(指宿市)

指宿駅前でいぶすきバルを2回開催し、併せてJR利用者への運賃の補助を行うことで、地域間交流の拡大と鉄道利用の促進を図りました

・来場者960名

(うち、JR利用者40名)



全体

この他にも指宿枕崎線をまちづくりに活用するプロジェクトや指宿枕崎線開業 60 周年イベントなど全14件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約 9,700 名(うち JR 利用者 約 1,100 名)でした。

4. 2024年度に実施予定の主な線区活用策

2024年度は以下の活用策の実施を予定しております。引き続き、指宿枕崎線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・指宿駅前における「いぶすきバル」の開催
- ・指宿枕崎線シンポジウムの開催
- ・山川駅の簡易委託による活用
- ・西穎娃駅の駅舎等を活用したイベント等の開催
- ・沿線駅の伐採、清掃作業の実施
- ・未就学児や児童生徒、高齢者の団体利用への支援及びその広報(JR 指宿枕崎線利用促進事業)
- ・謎解きイベント開催や企画乗車券造成への支援など(地域鉄道活性化支援事業)
- ・指宿枕崎線をまちづくりに活用するプロジェクトの活動支援

「日南線活用に関する検討会」における 2023 年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

日南線を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々には選ばれる交通手段になることを目的として、2023 年度は「日南線活用に関する検討会」を計3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有や意見交換などを行いました。

また、ご利用状況を改善するため、JR 日南線利用促進連絡協議会や沿線自治体等において様々な線区活用策が実施され、多くの方にご参加いただきました。

2. 出席者

宮崎市、日南市、串間市、志布志市、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 主な線区活用策（JR 日南線利用促進連絡協議会及び沿線自治体等による取り組み）

全線開通 60 周年記念事業の実施

60 周年を迎える 2023 年 5 月 8 日に出発式を含めた記念セレモニーを開催したほか、10 月 28 日の鉄道の日感謝祭(宮崎駅)にあわせて記念エンブレムを付けた列車を運行、さらに記念グッズや記念映像なども作成・公開し、1 年間に渡り日南線の利用促進や PR を図りました。

- ・参加者等:計 421 名(うち、JR 利用者:50 名)
- ・動画再生回数:約 6,000 回(3/31 時点)

【60周年記念列車出発式】

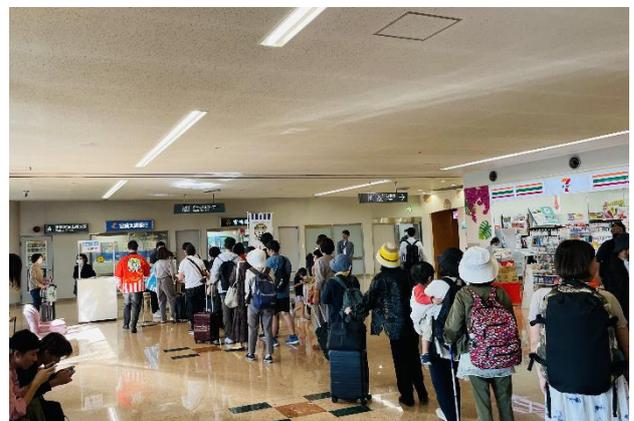


イベント等とコラボした利用促進策の推進・実施

プロ野球キャンプや空の日イベント、市民秋祭りなど、様々なイベントの開催時期に併せて、鉄道での来場者に会場で使える割引券や特典などの配布を行い、鉄道利用の推奨および PR を行いました。

- ・JR 利用者:計 1,134 名

【「空の日」イベントにおける
鉄道での来場者への特典配布】



つながるマルシェ

志布志駅での「ぼっぼマルシェ」及び串間駅での「よかむんマルシェ」を同日開催し、日南線を使って各会場へ訪問された方に特典を付与し、利用促進を図りました。

・参加者:2,100名(うち、JR利用者約60名)

【ぼっぼマルシェ】



【よかむんマルシェ】



日南線団体利用への支援

日南線の駅(南宮崎～志布志)を起点又は終点として鉄道を利用する沿線4市の市内団体に対する運賃の全額助成事業について、広報活動を強化することで前年度の2倍を超えるご利用がありました。

全体

この他にも「夢列車企画」や「乗り方教室」、「駅弁の販売」など全20件の線区活用策を実施し、イベント等を含めた全体の参加者等は約8,000名、動画再生回数は約6,000回、うちJR利用者は約5,100名でした。

4. 2024年度に実施予定の主な線区活用策

今年度も以下の活用策をはじめ、様々な取り組みの実施を予定しています。引き続き、日南線の更なる活性化にご協力をお願いします。

- ・沿線で開催される各種イベントとコラボした利用促進策の推進、実施
- ・高校生と連携したツアーの企画
- ・小中学校や幼稚園、老人クラブ等の活動を対象とした日南線団体利用への支援
- ・志布志駅開業100周年記念事業